

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成21年度採択)

中間評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
21-5	鋼橋の腐食劣化メカニズムの解明と耐久性診断に関する研究	琉球大学 准教授 下里 哲弘	B
<p>< 研究の概要 ></p> <p>鋼橋の防錆防食の寿命予測法の提案するため、沖縄にて 30 年間曝露され腐食劣化した耐候性鋼橋に対して、構造部位別での腐食劣化度と ACM 腐食センサ - を用いた環境調査により鋼橋の腐食劣化メカニズムを解明し、実環境と相似な環境における新腐食促進試験法を開発する。また、疲労と耐力試験の複合耐久性試験により実用的な鋼橋の耐久性診断法を提案する。</p> <p>< 中間評価結果 ></p> <p>腐食調査、構造試験、FEM 解析等の方法論等は概ね順調に進捗しており、基礎的な研究成果がある程度期待できる。ただし、実用・展開に適した手法の開発に向けて、指摘事項を踏まえ、研究を推進することが妥当である。</p> <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新設橋の設計や既設橋のメンテナンスへの反映を考えた上で、研究成果をまとめていただきたい。 2. 一般環境における具体の点検手法（留意点等を含む。）腐食診断法、耐久性診断法として取りまとめていただきたい。 3. 鋼 I 桁橋周りの塩分環境の解明と再現に関する調査研究に関しては、既往の研究との違いを明確にし、目標を絞り込んだ上で実施いただきたい。 4. 部分塗替え塗装要領（案）への反映に関する検討を加えていただきたい。 5. 腐食劣化した鋼 I 桁橋の耐荷力評価法においては、腐食の著しい状態での耐荷力評価についての研究の必要性は認められるものの、実際の個別管理現場のニーズとの関わりにおいて合理的措置に繋がるよう、実務での活用を念頭においた内容に重点を置いたとりまとめを目指した研究を実施いただきたい。 			